

## 経済レポート

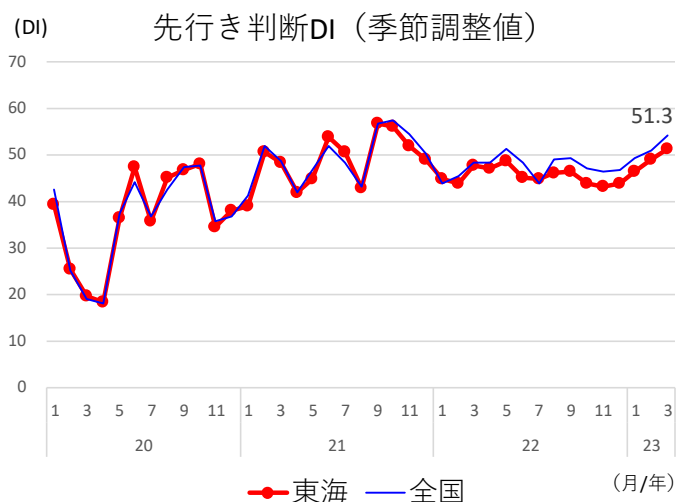
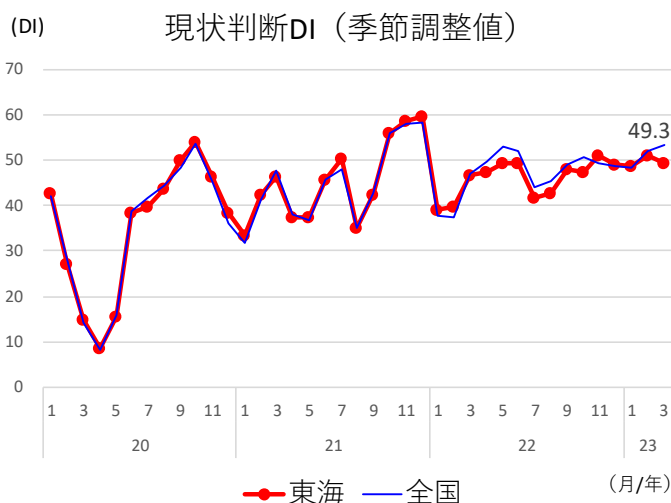
# 景気ウォッチャー調査(東海地区:2023年3月)

～現状判断DIが小幅悪化するも、持ち直し基調が続く～

主任研究員 塚田裕昭

- 4月10日に内閣府が公表した「景気ウォッチャー調査」によると、東海地区の3月<sup>1</sup>の

**現状判断DI(季節調整値)は、前月差-1.8ポイントの49.3と2ヶ月ぶりに低下した。  
先行き判断DI(季節調整値)は、前月差+2.5ポイントの51.3と4ヶ月連続で上昇した。**



- 当社では、東海地区の景気ウォッチャーの見方を

**新型コロナウイルス感染の落ち着きにより、景況感に持ち直しの動きがみられる。先行きについては、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の好影響やインバウンド回復などが期待される一方、物価上昇の影響が懸念されている。**

とまとめた。

(前月のまとめ)

「新型コロナウイルス感染の落ち着きにより、景況感に持ち直しの動きがみられる。先行きについては、新型コロナウイルス感染症の5類移行後の好影響やインバウンド回復などが期待される一方、物価上昇の影響が懸念されている。」

- 内閣府では、全国調査での景気ウォッチャーの見方を

**景気は、持ち直している。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、持ち直しが続くとみている。**

とまとめている。

(前月のまとめ)

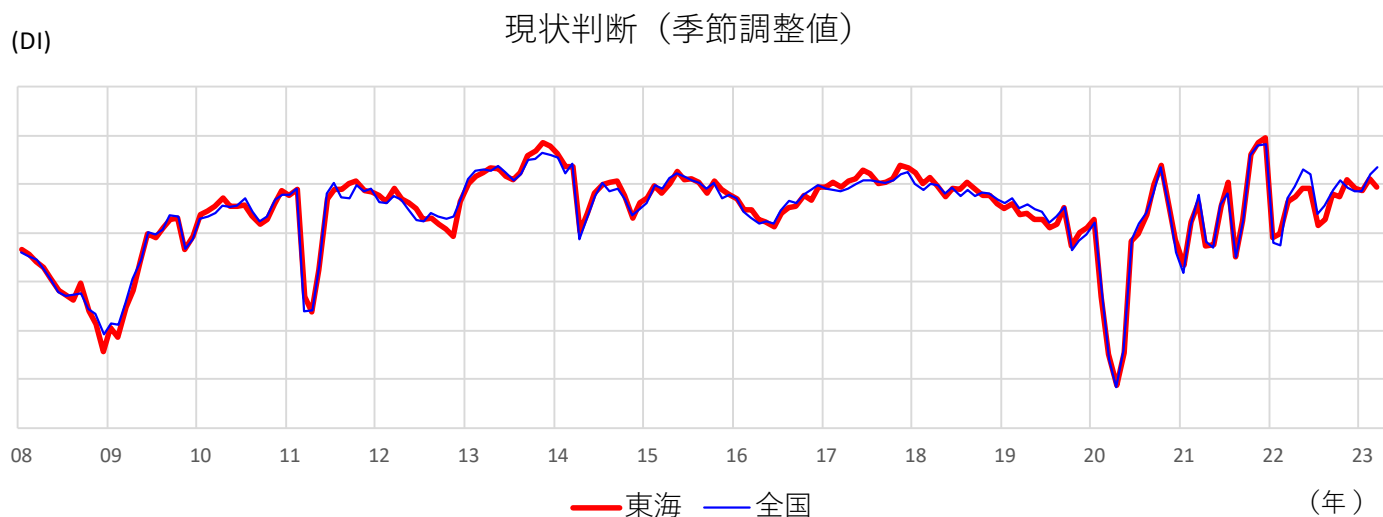
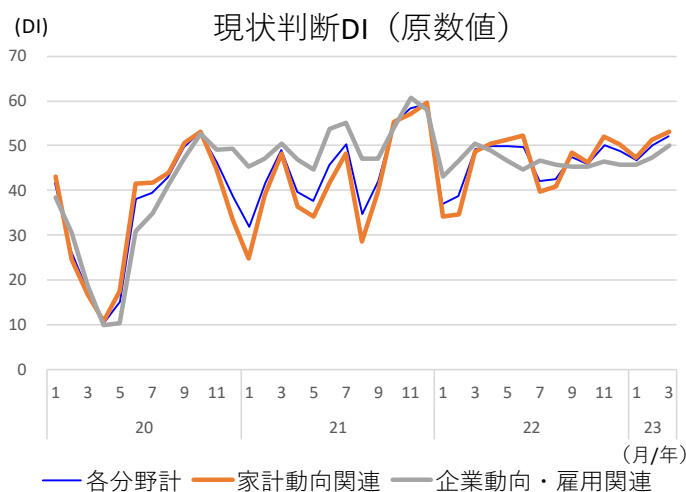
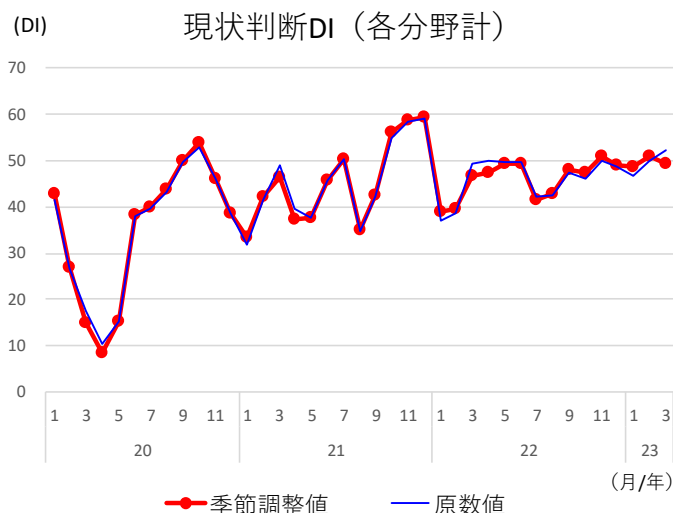
「景気は、緩やかに持ち直している。先行きについては、価格上昇の影響等を懸念しつつも、緩やかな持ち直しが続くとみている。」

<sup>1</sup> 調査期間は毎月25日～月末

## 1. 景気の現状判断(3ヶ月前との比較、方向性)

### (1) DIの動向

- 3ヶ月前と比較しての景気の現状に対する判断DI<sup>2</sup>(季節調整値)は、前月差-1.8ポイントの49.3と2ヶ月前に低下し、横ばいを示す50を2ヶ月前に下回った。季調済前月比では低下となり、DIも50を下回ったが、原数値では2ヵ月連続上昇、DIも50を上回っており、持ち直しの動きが続いているとみられる。
- 部門別に見ると(原数値)、家計動向関連(小売、飲食、サービス、住宅関連)DIは、同+1.9ポイントの53.2と2ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。企業動向関連と雇用関連からなるDI<sup>3</sup>は、同+2.7ポイントの50.0と3ヶ月連続で上昇し、改善と悪化が拮抗する結果となった。



<sup>2</sup> 本調査のアンケート・サンプル総数は227、うち家計関連150、企業・雇用関連77。以下、先行き判断についても同様。

<sup>3</sup> 企業動向関連と雇用関連からなるDI(原数値)は、内閣府HPに掲載されている地域別の各分野合計値から家計動向関連の値を除いた上で、「景気ウォッチャー調査」のDI算出方法に従って当社調査部にて試算した。

## (2) 現状判断理由の概要

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなっている、○:やや良くなっている、□:変わらない、▲:やや悪くなっている、×:悪くなっている

### 【家計動向関連】

- 新型コロナウイルス感染が落ち着いたことで人の流れが増え、景況感の改善を示す回答が増えている。一方で物価上昇による日用品販売等への悪影響を指摘する声も散見される。

◎	百貨店（販売促進担当）	・様々な制約が解除され、明らかに景況感が良くなっている。
◎	旅行代理店（営業担当）	・新型コロナウイルスの新規感染者数の減少と報道がなくなり種々の制限も解除されたことにより、旅行を計画する客が非常に多くなった。まだ国内旅行中心であるが、イベントの復活、全国旅行支援の実施という好要素が加勢し、販売量は増加している。
○	コンビニ（店長）	・3か月前と比べると店周辺の人出が、特に金曜、土曜は多くなり、外国人旅行者の姿もちらほら見るようになった。それに伴って当店での上売、来客数は新型コロナウイルス感染症発生前に戻りつつある。
○	タクシー運転手	・新型コロナウイルス感染症の制限が緩和されて、繁華街に出掛ける客が顕著に増えている。
□	スーパー（営業企画）	・売上、来客数、客単価共に前年を下回った状態で、ここ3か月は大きな変化はみられない。積極的な消費はなく、特に日用品については堅実な消費動向が続いている。
□	コンビニ（エリア担当）	・1品単価が上がり客単価の上昇はみられるため、売上は前年比も2019年比も超えてきた。しかし、来客数は新型コロナウイルス感染症発生前の2019年と比べ70人以上減っており、電気代や人件費の高騰により利益を上げづらい。
□	一般レストラン（経営者）	・仕入れる商品がことごとく値上がりしており、どのように価格転嫁していいのかとても悩んでいる。
▲	スーパー（店員）	・値上げによる買上点数の減少が止まらない状態である。

### 【企業動向・雇用関連】

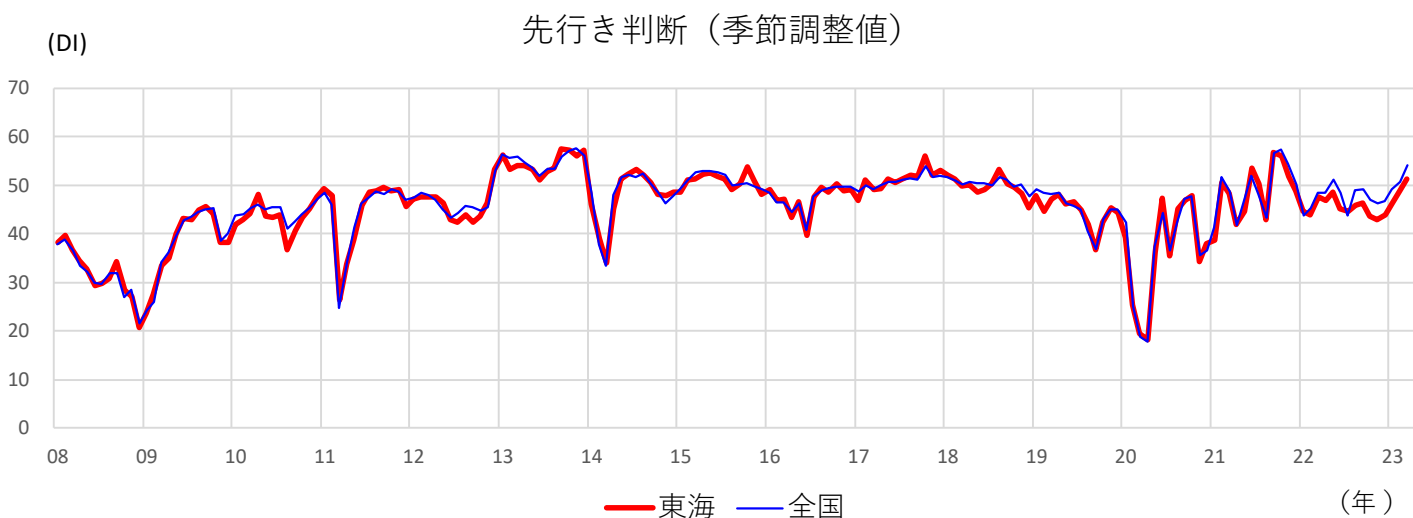
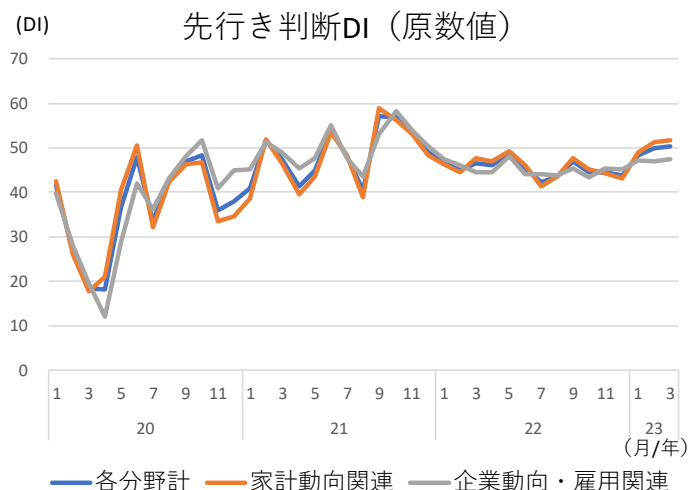
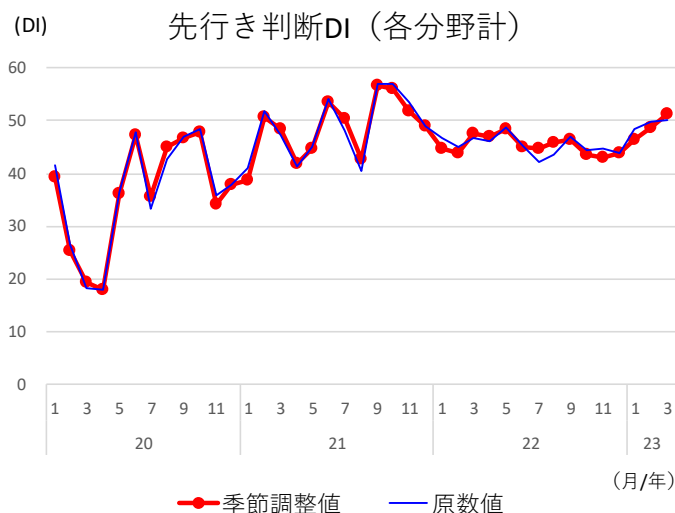
- 改善方向のコメントが増えた一方、依然低調ともコメントもあり、総じて改善、悪化が拮抗した状態となっている。自動車関連に関しても改善を指摘する声、依然厳しいとの声の両方があり、会社によって状況が異なるようだ。

○	一般機械器具製造業（営業担当）	・北米自動車向け設備では凍結されていたプロジェクトが復活したり、具体的な引き合いが増えてきた。
○	金融業（従業員）	・例年と比べて景気は上がってきているところが比較的多い。工場などの生産量や飲食店の売上も伸びつつある。
○	広告代理店（制作担当）	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いてきているため、業種により多少のばらつきはあるが、広告受注量は少しずつ増えている。
○	アウトソーシング企業（エリア担当）	・自動車生産において、半導体不足・供給部品不足は若干改善しており、当地区の工場稼働停止も減少している。
□	化学工業（営業担当）	・半導体向け電材需要は引き続き低調である。
□	輸送業（従業員）	・個人向けの宅配物量は顕著な動きであるが、企業間の物流、特に自動車製造業の物量が伸びない。
□	輸送業（エリア担当）	・一般消費者向けの食品や家電などの消費財に対する消費意欲が増していると言っている。しかし、運送業者が使用する資材や原料の荷物量はそれほど上昇していない。経済を支える企業が潤っているとは思えない。
▲	パルプ・紙・紙加工品製造業（顧問）	・受注量、販売量共に全般的に買い控えて値動きが悪く、特に食品関連は目立って悪化しており、景気はやや悪い。

## 2. 景気の先行き判断（2～3ヶ月先の見通し、方向性）

### （1）DIの動向

- 2～3ヶ月先の景気の先行きに対する判断DI（各分野計：季節調整値）は、前月差+2.5ポイントの51.3と4ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を16ヶ月ぶりに上回った。このところ先行きへの期待が高まってきている。
- 部門別に見ると（原数値）、家計動向関連（小売、飲食、サービス、住宅関連）DIは、同+0.4ポイントの51.7と3ヶ月連続で上昇し、横ばいを示す50を2ヶ月連続で上回った。企業動向関連と雇用関連からなるDIは、同+0.4ポイントの47.4と2ヶ月ぶりに上昇したが、横ばいを示す50を15ヶ月連続で下回った。



## (2) 先行き判断理由の概要

(注) コメント引用部左側の記号は以下の通り

◎:良くなる、○:やや良くなる、□:変わらない、▲:やや悪くなる、×:悪くなる

### 【家計動向関連】

- 新型コロナウイルス感染の落ち着いたき、5類移行後への期待がある一方、物価上昇による消費抑制が懸念されている。

◎	一般小売店〔土産〕(経営者)	・新型コロナウイルス新規感染者数の減少、観光客数の増加、物流の拡大などが連動し始めている。
○	百貨店(営業企画担当)	・新型コロナウイルス感染症の分類が5類感染症になれば変わってくる。
○	コンビニ(店長)	・新型コロナウイルス感染症に終息の兆しが少し出てきたため、客の消費マインドが徐々に高まってくる。特にインバウンドの動きに注目している。
○	乗用車販売店(販売担当)	・半導体不足も解消され車が徐々に生産されるようになってきたため、自然と販売量も上がっている。
○	都市型ホテル(総支配人)	・外国人旅行者の戻りと5月8日以降の新型コロナウイルス感染症の5類感染症移行に期待する。ただし、この1年で光熱費が約40%、リネン洗濯費が25%上昇し、更に清掃コストも大幅に上昇し価格交渉も受け入れてもらえない。人材確保が非常に困難なことに加え、コストの上昇を販売価格に転嫁できず、収益は悪化する可能性が大きい。
□	スーパー(総務)	・新型コロナウイルスの感染状況が落ち着いたき、家族連れの買物客が増えてにぎやかになってきたが、物価上昇の影響で買物が慎重になっているようにみえる。今後も消費は上向きにならない。
▲	スーパー(店長)	・価格上昇は止まっておらず光熱費も高騰したままであるが、賃金は余り上がっていないため、必要な物以外の買い控えは続く。
▲	乗用車販売店(従業員)	・人気車種の多くがオーダーストップで購入したくてもできない状態が続いている。新型車の発表もあるが予約の段階で数年待ちになり、納期を聞いて購入を控える客もいる。
×	スーパー(店員)	・担当カテゴリーにおいて来月以降も更なる値上げが控えている。

### 【企業動向・雇用関連】

- 設備投資の伸び、昇給による消費拡大に期待する声がある一方、コスト上昇により収益的には厳しくなると懸念する声もある。企業動向・雇用関連では、先行きについてはまだ慎重な見方が優勢となっている。

○	電気機械器具製造業(総務担当)	・半導体不足の影響で部品の供給不足も続くが、顧客の設備投資意欲は衰えていない。秋頃から部品供給が戻るという予測も出ており、年末にかけて通信機器の販売が増加するものと期待している。
○	会計事務所(職員)	・4月は大半の顧問先が定期昇給を行うが、物価の上昇が急であるため例年より昇給額を増やすところが多い。健康保険料、介護保険料や雇用保険料の引上げもあるため手取りがどれくらい増えるかは疑問だが、少し消費に向けられるのではないかと見られる。
○	職業安定所(職員)	・新規求職者のうち雇用保険の受給手続きをした人をみると、自己都合の割合が大幅に増えており、自発的な転職活動が強まっている。
□	一般機械器具製造業(営業担当)	・引き合い、受注共に増えてきて、運送コストは落ち着いてきたが、1度価格が上がった原材料費が下がり、利益がなかなか確保できない状況が続いている。
□	輸送業(従業員)	・ただでさえ燃料等の経費増加で頭が痛いのに、これからは人件費も上げていかないと人手不足になってしまう。何とか運賃に転嫁したいところだが、荷主が理解してくれるかどうか分からない。
▲	窯業・土石製品製造業(社員)	・4月からの値上げ前の駆け込み注文が3月にあったため、4月からの3か月程度は受注量の減少が予想される。
▲	電気機械器具製造業(経営者)	・これから価格転嫁された材料が製品になって市場に出回るため、相当な値上げが見込まれ、需要が減少する。

## 景気ウォッチャー調査について

- 景気ウォッチャー調査は、内閣府が月次で公表する景況調査で、百貨店売場担当者、タクシー運転手、企業経営者など地域の景気に関連の深い動きを観察できる立場にある人々に景気の方角性、水準についての見方を回答してもらい、その結果を集計公表するサーベイ調査である。
- 調査は毎月、当月時点であり、調査期間は毎月 25 日から月末である。
- 調査対象の職種によって、「家計動向関連」、「企業動向関連」、「雇用関連」に区分し、区分毎に、集計結果を公表している（地域別は各分野計、家計動向関連のみ公表）。
  - 「家計動向関連」：商店街代表者、百貨店担当者、タクシー運転手、美容室従業員など
  - 「企業動向関連」：製造業経営者、非製造業経営者など
  - 「雇用関連」：人材派遣会社社員、職業安定所職員など
- 主な調査項目は、次の 3 項目。
  - (1) 景気の現状に対する判断（方向性）
  - (2) 景気の先行きに対する判断（方向性）
  - (3) 景気の現状に対する判断（水準）
 (1) (2) については、判断の理由についても回答を求めている。
- 上記調査項目について、下記の 5 段階の判断を求め、回答結果をもとにそれぞれ点数を与え、これを各回答区分の構成比に乗じて D I を算出している。回答者全員が「変わらない」と答えた場合、D I は 50 となるため、D I = 50 が景気の横ばいを示すこととなる。

	良くなっている	やや良くなっている	変わらない	やや悪くなっている	悪くなっている
評価	良くなる (良い)	やや良くなる (やや良い)	変わらない (どちらとも いえない)	やや悪くなる (やや悪い)	悪くなる (悪い)
点数	+ 1	+ 0. 7 5	+ 0. 5	+ 0. 2 5	0

(出所) 内閣府HP

- 全国各地の地域ブロック毎に集計・分析をおこなっており、東海地区は、岐阜、静岡、愛知、三重の 4 県が対象となっている。

※調査の詳細については、内閣府HP、「景気ウォッチャー調査」報告書をご参照ください。

### － ご利用に際して －

- 本資料は、信頼できるとされる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。
- また、本資料は、執筆者の見解に基づき作成されたものであり、当社の統一した見解を示すものではありません。
- 本資料に基づくお客様の決定、行為、及びその結果について、当社は一切の責任を負いません。ご利用にあたっては、お客様ご自身でご判断くださいますようお願い申し上げます。
- 本資料は、著作物であり、著作権法に基づき保護されています。著作権法の定めに従い、引用する際は、必ず出所：三菱UFJリサーチ&コンサルティングと明記してください。
- 本資料の全文または一部を転載・複製する際は著作権者の許諾が必要ですので、当社までご連絡下さい。